

交流フォーラムにおける「匠の里 伊勢型紙フェスタ」との連携について

三重県戦略企画部企画課

1 「匠の里 伊勢型紙フェスタ」との連携について

「匠の里 伊勢型紙フェスタ」は、鈴鹿市の伝統工芸品産業である伊勢型紙の振興を目的として、平成 20 年からスタートしたイベントです。

イベントは、伊勢型紙産地協議会や白子まちかど博物館などの実行委員会で企画、運営されており、伊勢型紙とその産業を育んだ白子・寺家地区の歴史に触れていただける機会を提供し、一人でも多くの方に伊勢型紙やこの地域を知っていただくために開催しています。

平成 24 年 11 月 3 日(土)4 日(日)に開催された第 5 回「匠の里 伊勢型紙フェスタ」では、県が実施する「高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり推進事業」と連携いただき、鈴鹿市内の高等教育機関(鈴鹿国際大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿工業高等専門学校)の学生延べ 23 名も参加し開催されました。



2 オリエンテーションの実施について

イベントへのボランティア参加にあたり、学生の皆さんに協力いただく内容と、「匠の里 伊勢型紙フェスタ」の目的及び学生の皆さんに期待することを説明するため、以下のとおりオリエンテーションを実施し、それぞれの役割分担を決定しました。

日時・場所：10月21日(日) 13:30~15:00 鈴鹿市伝統産業会館

鈴鹿工業高等専門学校の皆さんには、10月24日(水) 16:00~鈴鹿工業高等専門学校にてオリエンテーションを実施しました。

参加者：鈴鹿国際大学より学生代表1名、捧教授、鈴鹿医療科学大学 学生2名、伊勢型紙産地協議会(実行委員)、三重県鈴鹿県民センター、三重県企画課他

3 「第5回匠の里 伊勢型紙フェスタ」開催当日の協力について

イベント当日は、参加学生の皆さんに白子駅、鼓ヶ浦駅での来場者へのご案内、お茶席手伝い、子ども向け宝探しイベントの受付などの役割を担っていただきました。また、着物を着ての町歩きによるPRをしていただきました。

1) 学生の主な協力内容について

参加学生は、主に以下の内容について協力しました。

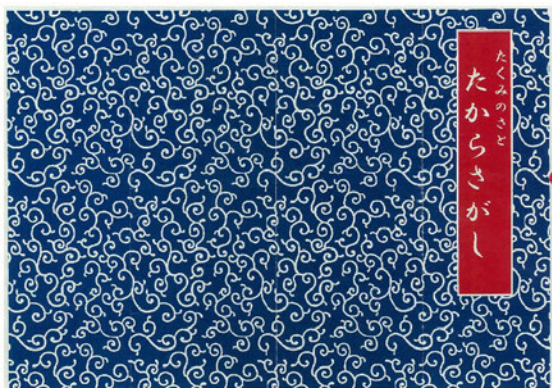
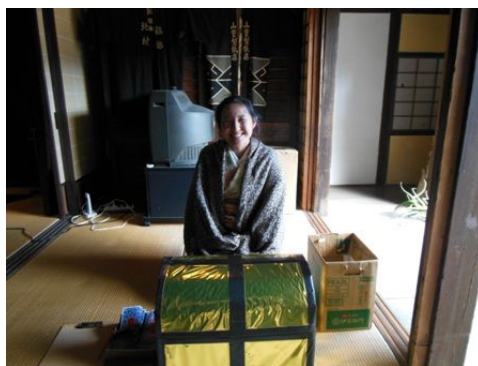
■ 白子駅、鼓ヶ浦駅でのPR



■ お茶席手伝い



子ども向け宝探し受付等



着物でまちあるき



2) 実行委員会等主催者、地域ボランティアと参加学生からの声 主催者（地域）等から見た学生の参加について

- ・ 伊勢型紙の関係者は高齢化しており、自分達だけでは、このようなイベントは難しい。地域の方や学生さんが参加して手伝ってもらえるからこそ、いろいろなことに挑戦できる。
- ・ ボランティアとしてだけでなく、この地域や伊勢型紙のことを学生さんにも知ってもらいたいという気持ちもある。そのため、ボランティアスタッフとしてだけでなく、イベント参加者としてもまちあるきをして、気づいたことを次回へ生かしていただけるとありがたい。
- ・ 今後、継続していくためには、日頃から地域と学生が関わる機会を持つことが大切。

参加学生からの感想

- ・ 今回のイベントは、自分自身も楽しめたとし、地域のこと学べたことが良かった。
- ・ ボランティアスタッフと主催者側（受け入れる側）が、当日のイベントの内容等について、もう少し共通理解しておけば、もっとスムーズに動けたのではないかな。
- ・ （自分が担当する以外のイベントも含めて）もう少し内容の説明をしてほしかった。（来場者に質問されてもわからなくて答えられないことがあった。）
- ・ イベントも楽しく、着物を着ることもできたので、参加できてよかった。ボランティアの仕事の内容（着物が着れる、お茶会の手伝いができるなど）を、事前にもう少し周知していれば、参加したいという学生がもっといたのではないかな。
- ・ 日程が学校行事等と重なってしまった。

4 交流フォーラム「匠の里 伊勢型紙フェスタ」の振り返り

1) 「伊勢型紙フェスタ」を通じて気づいたこと 高等教育機関にとって

今回は、鈴鹿市内の高等教育機関（鈴鹿国際大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿工業高等専門学校）にご協力をいただいた。当該イベントは地域と密着した事業であり、地域のことをもっと理解してもらいたいということも目的のひとつであるので、学びの場としてのメリットもあると考えられる。

学生にとって

参加学生からは「地域を知ることができてよかった」という声も多かった。留学生や他県から三重県に来た学生にとっては、地域とつながりを持つきっかけとなるイベントになると考えられる。

また、鈴鹿工業高等専門学校のように、日頃から伊勢型紙について学習している学生などからは、伊勢型紙の今後の展開への興味もあるという声も出ており、イベント

だけでなく、日頃の活動とリンクすることが期待できる。

地域にとって

高齢化等の影響もあり、今後、地域で大掛かりな取組を行う場合には担い手不足が課題となるケースが想定されるが、若い世代の参加自体が地域に活力を生み、住民の皆さんのやる気やより積極的な参画に繋がる効果もあるのではないかと考えられる。

2) 課題と今後の展開について

ボランティア参加者のすそ野の拡大について

学生のボランティア募集の時期なども、なるべく早い時期に提示するとともに、具体的な内容を周知する場があれば、より多くの学生に興味を持ってもらえるのではないかと考えられる。また、学生のアンケートでも、単位制やカリキュラム化などを望む声が多く、学生の地域活動への参加を促す手段として、カリキュラム化は効果的と考えられる。

今後すそ野を拡大していくためにも、学生が参加しやすくなるための情報提供の時期やあり方、学生にインセンティブを与える仕組み等を検討する必要がある。

活動の持続性

地域と高等教育機関の間で継続的で持続可能な連携を一層進めるためには、双方のメリットを再確認する機会が必要であるとともに、一過性のイベント以外にも年間を通じた交流の機会が必要と考える。

伊勢型紙の振興について、新しい分野への展開やPRの手法など、高等教育機関や学生からも提案できる場を日頃から設けることにより、課題を共有できれば、例年のイベントの企画にも、学生がより積極的に関わられる場面が出てくると考えられる。